

通 信

沖縄生物学会第58回大会の開催のお知らせと講演プログラム

沖縄生物学会の第58回大会を下記の要領で開催いたします。今大会はオンライン口頭発表39題の発表を予定しております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

新型コロナ(COVID-19)の国内での感染拡大、刻々と変わる情勢と今後の予測などを考慮し、完全オンラインでの一般講演・総会・池原貞雄記念賞受賞講演のみとします。大会に関連した詳細な情報は、今後も随時学会ホームページに掲載してまいりますので、ご確認くださいようお願い申し上げます。

沖縄生物学会第58回大会

日時：2021年5月29日(土曜日)

場所：Zoom Web 会議サービスを利用したオンライン開催

大会参加費：無料(参加登録されている方へ Zoom 接続情報を5月15日までに配信予定です)

問い合わせ先(大会実行委員会)：okibiomtg2021@gmail.com (メール)

大会日程

	A会場	B会場
8:30～	Zoom 開場 (入室可能)	
8:45～9:00	開会の挨拶・参加者への注意事項の説明	
9:00～10:30	口頭発表【午前の部Ⅰ】6題	口頭発表【午前の部Ⅰ】6題
10:30～10:40	休憩	休憩
10:40～12:10	口頭発表【午前の部Ⅱ】6題	口頭発表【午前の部Ⅱ】6題
12:10～13:00	休憩(昼食)	
13:00～13:50	第11回池原賞受賞講演	
13:50～14:40	総会	
14:50～15:50	口頭発表【午後の部Ⅰ】4題	口頭発表【午後の部Ⅰ】4題
15:50～16:00	休憩	休憩
16:00～17:00	口頭発表【午後の部Ⅱ】4題	口頭発表【午後の部Ⅱ】3題
17:05～	閉会の挨拶	

沖縄生物学会第58回大会準備委員会

大会長：伊澤雅子

実行委員会委員：中村崇、戸田守、江藤毅、傳田哲郎、竹村明洋、田中厚子、小林峻、藤田喜久、当山昌直、千木良芳範

沖縄生物学会第58回大会

会期:2021年5月29日(土)

<視聴・発表について>

オンライン上に A 会場および B 会場を設定しますので、事前申し込み参加者にメールにて配布される URL にアクセスして会場に入室し、発表および視聴をお願いします。ご所属の機関によってはセキュリティ上の理由により、Zoom の使用が制限されている場合があります。ご確認の上、該当する場合はご自宅等からの参加をご検討ください。また、大会時のトラブル対応のため、予備会場として C 会場を設定し、事前申し込み参加者にメールにて配布予定です。

リアルタイムでのオンライン口頭発表と質疑応答を行います。発表は Zoom の画面共有機能を用いて行います。演者が発表スライドを画面共有すると、聴衆は同じスライドを自身の PC 画面上で見ることができます。発表時間は、質疑応答を含め 1 題 15 分 (Zoom 切替を含めた講演 12 分、質疑 3 分) です。

発表資料の保存(画面キャプチャを含む)、録音、録画、再配布は禁止と致します。

<Zoom 発表会場へのアクセス>

発表会場の URL は参加者にメールでお知らせするとともに、参加者に配信される要旨集にも記載予定です。万が一、Zoom 会場に起因するトラブルが発生した場合、予備の URL (C 会場) を臨時会場として使用する可能性があります。大会直前・当日の連絡につきましては、大会メールアドレス (okibiomtg2021@gmail.com) へお願いいたします。大会事務局からの連絡も申し込み時の電子メールアドレスへ適宜お知らせをする予定ですのでご確認ください。

会場には当日のプログラム開始の 30 分前から入室出来ます。URL にアクセスして会場に入室する際は、**名前の入力欄に以下のようにご記入ください。**

講演者の方： 講演番号 氏名(所属) <例> A01 沖生 太郎(珊瑚海研)
参加・聴講のみの方： 氏名(所属) <例> 山猫 元気(西表大)。
※講演番号は要旨集・プログラムに記載されています。

既に Zoom のアカウントをお持ちの方は、ウェブブラウザもしくはアプリにサインインした状態でセッション URL にアクセスすると、アカウントに登録した名前が表示されますので、**上記の通り名前を変更**してください。Zoom 画面下の「参加者」を押し、画面右に出てきた参加者リストのご自分の名前にカーソルを合わせると右側に「詳細」と表示されます。これを押し、「名前の変更」画面が表示されるので、「新しい名前をここに入力:」の欄に変更する名前を記入してください。

名前を入力欄が表示されずに会場に入室できた場合は、Zoom アカウントにサインインした状態になります。入室後、「コンピュータオーディオに参加する」という画面が表示されたらそのままボタンを押して下さい。Zoom アプリが、コンピュータのマイク・スピーカーを使えるようになります。

講演を視聴している間は、**ミュート(音声マイク OFF)、ビデオカメラも OFF の状態**にしておいてください。講演に対し質問・コメントをする際には質疑・応答の時間、または発表時間中に Zoom の「チャット」欄に、ご自身の氏名に加え「質問です」と書き込んでください。座長に指名されたらミュートを解除し、口頭で質問してください。また、チャットでの質問がない場合は、口頭で質問を受け付ける場合もあります。会場から退室もしくは別会場へ移動を行う場合は、Zoom の画面右下にある「退出」(赤いボタン)をクリックし、さらに「ミーティングから退出」をクリックします。別会場へ移動される場合は、該当会場の Zoom URL にアクセスして会場に入室してください。

一般講演 午前の部【9:00～12:10】

*** 今大会はZoom 2会場(A会場、B会場)で行いますので、ご注意ください。**

<A会場>

A-01 9:00-9:15

沖縄島中部の野外から採集されたタウナギ(*Monopterus* sp. sensu Tachihara, 2015)の卵と稚魚
○糸 正幸・金尾由恵・刀禰浩一・佐藤寛之

A-02 9:15-9:30

熱帯性ハタ科魚類カンモンハタにおける月周性産卵機構の解明
○福永耕大・山科芙美香・山内千裕・武方宏樹・竹内悠記・竹村明洋

A-03 9:30-9:45

沖縄島沿岸に生息するクロフジツボの1種 *Tetraclita kurosoiensis* における生殖年周期
○片山 蒼・Tan Ee Suan・武方宏樹・Angka Mahardini・竹村明洋

A-04 9:45-10:00

ミドリイシ属サンゴにおける性ホルモン合成酵素の発現変動
○濱里都乃・Tan Ee Suan・武方宏樹・竹村明洋

A-05 10:00-10:15

沖縄島大浦川におけるヒゲワラスボ属 *Trypauchenopsis* sp. 1 の成熟
○宮平拓実・國島大河・立原一憲

A-06 10:15-10:30

ダイビング利用の盛んな恩納村真栄田岬のサンゴ群集および魚類群集の現状
○長田智史・佐川鉄平・中尾芳典・金井 恵・當山彰一

【休憩 10:30-10:40】

A-07 10:40-10:55

The impacts of mass coral bleaching in 2016 on the reef communities of Sekisei Lagoon, Japan
○Mariyam Shidha Afzal・小島香菜・上野光弘・中村 崇

A-08 10:55-11:10

Mass coral bleaching impacts and recovery of acroporid corals in Sekisei Lagoon
○中村 崇・Mariam Shidha Afzal・Dio Dirgantara・本堂瑠璃・塚本 陸・竹市このみ・小島香菜

A-09 11:10-11:25

琉球列島におけるコクビミドリイシ *Acropora digitifera* の個体群特性
○本堂瑠璃・中村 崇

A-10 11:25-11:40

沖縄島沿岸に生息するウミキノコ属 *Sarcophyton* に対する紫外線防御剤の影響
○藤原望海・種山穂奈美・高橋宏和・渡辺百合香・永禮由布子・清水秀樹・本堂瑠璃・中村 崇

A-11 11:40-11:55

備瀬礁池における海藻・海草植生と底質環境の関係
○戸崎幹大・西原 グレゴリー 直希・岩永洋志登・小西照子・田中厚子

A-12 11:55-12:10

Sea cucumber density and relationship with benthic community in Okinawajima Island
○Kohei Hamamoto, Angelo Polisenio, James Davis Reimer

<B会場>

B-01 9:00-9:15

ノボタンの二型雄蕊と送粉における役割

○八幡翔悟・傳田哲郎

B-02 9:15-9:30

エダウチヤガラは無菌培養での種子発芽

○徳原 憲・佐藤裕之・天野正晴・阿部篤志

B-03 9:30-9:45

琉球列島産キイチゴ属3種の形態の比較

○上門優志・横田昌嗣・傳田哲郎

B-04 9:45-10:00

南西諸島のサルトリイバラ類に寄生するサビキンの多様化パターンの解明

○儀武滉大・井口 亮・岡根 泉

B-05 10:00-10:15

琉球大学のミミズは何種類いるのか？—分子系統解析から明らかになったミミズの種の多様性—

○瀬底 蘭・大道寧祢・安座間安史・城間吉貴・中村元紀・波平知之・北條 優・富永 篤

B-06 10:15-10:30

シロオビアゲハの温度ショックによる翅色模様の変化

島尻智之

【休憩 10:30-10:40】

B-07 10:40-10:55

福島原発事故発生時におけるヤマトシジミ *Zizeeria maha* (鱗翅目シジミチョウ科)の越冬態の推定

○阪内 香・平良 渉・土岐万理子・伊良波裕太・大瀧丈二

B-08 10:55-11:10

オキナワネブトクワガタの生態に関する研究

○島袋 陽・金城勇斗

B-09 11:10-11:25

絶滅危惧昆虫フチトリゲンゴロウとヒメフチトリゲンゴロウの幼虫期における好適な餌生物の検討

○菅原青空・山本誉士・北野 忠

B-10 11:25-11:40

大宜味村におけるウシガエルの食性と、かご罟を用いた駆除実験

○中村泰之・苅部治紀・加賀玲子・富永 篤

B-11 11:40-11:55

石垣島におけるカムリワシの生息状況

○水谷 晃・神谷 颯・井上太之・山本誉士・西原彰浩・山本以智人・河野裕美

B-12 11:55-12:10

西表島林縁域における非繁殖期のカムリワシの行動圏と林内採餌場環境

○神谷 颯・水谷 晃・山本誉士・伊澤雅子・河野裕美

【12:10～13:00】 休憩(昼食)

【13:00～13:50】 第11回池原貞雄記念賞受賞講演 A会場

【13:50～14:40】 総会 A会場

一般講演 午後の部【14:50～17:00】

<A会場>

A-13 14:50-15:05

Mitochondrial genome phylogeny of genus *Palythoa* (Order: Zoantharia)

○Fourreau Chloe, Reimer James

A-14 15:05-15:20

Self-recruitment of *Acanthopagrus pacificus* populations in Irimote-jima Island revealed by population genetic analysis

○Md Rakeb-UI Islam, Afuso Kotaro, Katsunori Tachihara, Hideyuki Imai

A-15 15:20-15:35

琉球列島におけるホシマダラハゼ属魚類の系統および分類学的再検討

○小林大純・山川宇宙・佐藤真央・前田健

A-16 15:35-15:50

沖縄近海で採集されたイカ類稚仔の遺伝的手法による種同定

○安富祖考泰郎・吉田 聡・秋田雄一・岸本和雄・今井秀行

【休憩 15:50-16:00】

A-17 16:00-16:15

Molecular species identification of three subspecies of the shallow water shrimp *Acetes sibogae* (Hansen 1919) using PCR-RFLP analysis

○Eko Hardianto, Yukio Hanamura, Hideyuki Imai

A-18 16:15-16:30

沖縄県沿岸より採集された稀なシャコ科口脚類 (甲殻亜門軟甲綱)

○中島広喜・成瀬 貫

A-19 16:30-16:45

環境 DNA を用いた西表島小河川のテナガエビ類・ヌマエビ類相について

○永井大翔・佐藤行人・福家悠介・今井亮介・今井秀行・梶田 忠

A-20 16:45-17:00

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防の生化学

○山崎秀雄

<B会場>

B-13 14:50-15:05

臼齒摩耗度を用いたケナガネズミの齡推定

○中西 希・伊澤雅子・小林 峻・中田勝士

B-14 15:05-15:20

法医学的手法を用いたヤンバルクイナの捕食動物の推定

○羽賀 淳・中谷裕美子・長嶺 隆・小野宏治・遠藤秀紀・大沼 学

B-15 15:20-15:35

ヘマトキシリン-エオシン染色組織標本の蛍光観察における、自家蛍光とエオシン蛍光について

○泉水 奏 ・大倉信彦・大森紹仁・大矢佑基・瑞慶覧朝盛・柳研介

B-16 15:35-15:50

2019年と2020年の西表島における海草群落とアオウミガメの分布

○井上太之・水谷 晃・山本誉士・竹中康進・河野裕美

【休憩 15:50-16:00】

B-17 16:00-16:15

西表島崎山湾におけるウミシヨウブ藻場の衰退とアオウミガメによる採食防止策の効果

○石森博雄・井上太之・水谷 晃・田端重夫・竹中康進・河野裕美

B-18 16:15-16:30

慶良間諸島におけるイイジマウミヘビの採餌の季節性

○山本 拓海・戸田 守

B-19 16:30-16:45

沖縄島で確認された日本初記録のウミヘビ(爬虫綱)

○笹井隆秀・山本拓海・岡慎一郎・戸田 守

沖繩生物学会誌投稿規定の改正に関する重要なお知らせ

この度、沖繩生物学会誌の投稿規定が改正されました。

今回の改正にあたっては、編集幹事および編集委員会委員が中心となって内容を見直し、前投稿規定に従い、編集委員会の承認を経て、本学会評議委員会にて承認されました（2021年3月26日付）。

今回の改正では、特に原稿区分について大きく変更されています。原稿は、「原著論文 (Original papers)」、「短報 (Short reports)」、「資料 (Data/Resources)」、「総説 (Review articles)」、「書評 (Book reviews)」、「その他 (Others)」に区分され、原著論文、資料、総説は図表を含めて刷り上がり 8 ページ以内、短報は刷り上がり 4 ページ以内、書評は刷り上がり 2 ページ以内を原則としています。

また、希少生物の保護・保全（対策）にも十分に配慮するため、研究対象生物の調査や採捕に際し行政機関等からの許可が必要な場合には、原稿の本文中に必ず許可番号等を明記するなどの項目も盛り込まれています。

その他、様々な改定・改訂が行われておりますので、学会 HP および本誌 59 号に掲載されている投稿規定をご確認ください。

沖繩生物学会 HP 投稿規定 URL: <https://www.okibio.jp/publish/02.html>

2022 年 3 月に発行予定の第 60 号に掲載の報文からは、改正された投稿規定に基づいて編集作業が行われます。ご投稿の際には、必ず投稿規定をご一読の上、規定内容に沿うよう原稿を準備くださいますようお願い致します。

沖繩生物学会誌著作権規定の制定・施行に関する重要なお知らせ

本学会の評議委員会において、2021年3月26日付で「沖繩生物学会誌著作権規定」が制定され、即日施行されました。

従来は、改正前の「沖繩生物学会誌投稿規定」中に本誌の著作権に係わる項目が簡易に記述されておりましたが、昨今の他学術誌等における著作権の帰属、譲渡、許諾、紛争解決等の明確化およびルール化の動きを受け、本誌編集幹事および編集委員会委員においてとりまとめを進めておりました。

本著作権規定では、掲載された論文等の著作権は全て沖繩生物学会に帰属するものと定めています。また、沖繩生物学会誌の将来的な電子化やインターネットを介した公開の可能性も見据え、既発行の著作物の取り扱いについても定めております。本学会では、著作者（ら）から委譲された沖繩の生物に関する貴重な情報（＝論文等の著作権）を、本学会会員や沖繩の生物に関わる方々に、将来にわたり広く提供するための礎としたいと考えています。その一方で、著作者（ら）による研究・教育普及啓発等の非営利活動における利活用については、比較的柔軟に対応できるようにも配慮しております。

なお、本著作権規定は、沖繩生物学会誌に掲載される報文を対象としたものであり、本学会の他の出版物は対象外であることにご留意ください。本著作権規定の全文については、学会HPおよび本誌59号に掲載されておりますので、ご一読の上、ご理解、ご協力いただきますようお願い致します。

沖繩生物学会 HP 沖繩生物学会誌著作権規定 URL: <https://www.okibio.jp/publish/03.html>

2020 年度 沖縄生物学会 第 2 回、第 3 回評議員会報告

沖縄生物学会評議員会が 2021 年 3 月中旬および 4 月下旬に開催されました。新型コロナウイルスの影響もあり、それぞれメール会議形式で行われました。

[審議事項]

1. 学会誌投稿規定の改正および本学会の著作権規定について

3 月の評議員会では、昨年の評議員会から継続審議となっていた学会誌投稿規定の改正と、学会誌の著作権/版権を巡る規定について審議がなされました。まず、編集委員会によって起案され、幹事会の議を経た沖縄生物学会誌投稿規定改正案と同著作権規定案が示され、条文（案）に使用されている語の定義、文言について議論されました。最終的に、一部原案に修正を加えたかたちで 2021 年 3 月 26 日に両案とも承認され、即日施行されました。詳細については本通信の 7 ページをご覧ください。

2. 第 58 回大会の準備・分担・運営について

4 月の評議員会では、第 58 回大会の準備等の確認と学会通信の内容について審議されました。第 58 回大会については、まず、2021 年 5 月 29 日（土）に開催予定であること、オンライン形式に伴い例年にはない準備が必要であることなどが確認されました。また、申し込み状況などを受けて口頭発表を 2 会場に分けて行うこと、第 11 回池原貞雄記念賞 2 件の受賞講演を行うことのほか、オンライン用ミーティングルームの設定や運用に関する事項などが承認されました。大きな変更として、通信 107 号で十分なネット環境を確保できない会員向けに設置の可能性を示していたパブリックビューイング会場については、新型コロナウイルスの感染拡大を受けてその設置中止が決定されました。

3. 学会通信の準備状況について

第 58 回大会プログラムの掲載が主となる通信 108 号（本通信）の内容について、庶務幹事（通信担当）により提案され幹事会の議を経た案が示され、審議されました。その結果、例年の内容に加え、学会誌投稿規定改正/同著作権規定について周知をはかるための記事（本通信 7 ページ）を掲載すること、さらに、投稿規定の改正で付け加えられた生物の採捕許可掲載の項目に関連し、沖縄県希少野生動植物種保護条例など、生物の捕獲にまつわる法規制の記事（本通信 10 ページ）を掲載することが承認されました。

[報告事項]

1. 第 11 回池原貞雄記念賞の授賞式について

第 11 回池原貞雄記念賞は、昨年の評議員会で安座間安史氏（教育功労部門）と公益法人沖縄こどもの国（環境保護部門）の受賞が決定していましたが、2020 年次大会が中止になり、総会も変則的に評議員会で代替されたため授賞式を行うことができませんでした。調整の結果、2021 年 5 月中旬に沖縄こどもの国において役員と関係者のみで開催し、その様子を今年の大会で動画配信することとしたという報告がなされました。

2. 第 12 回池原貞雄記念賞について

第 12 回池原貞雄記念賞について、通信 107 号を通じて会員向けに候補者の募集を呼びかけましたが、2021 年 1 月末日の締め切りまでに推薦・応募がなかったため該当者なしとしたことが、選考委員長から報告されました。本件が評議員会で確認されたことにより、第 12 回池原貞雄記念賞は該当者なしと決定されました。

本通信の発行後にも、第 58 回総会での審議事項を事前に審議するための評議員会が予定されていますが、残念ながらオンラインでの開催となります。来たる第 58 回大会でもみなさんに直接お会いすることは叶いませんが、来年こそは対面での評議員会、大会が開かれることを切に願います。

「国立自然史博物館誘致シンポジウム」開催報告

沖縄生物学会が共催したシンポジウム「国立自然史博物館誘致シンポジウム～沖縄に自然史博物館があったなら～」が開催されました。当初、2021年2月14日に沖縄県立博物館・美術館で開催される予定でしたが、沖縄県の緊急事態宣言の延長に伴い、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、あらかじめ録画していた発表が2021年2月21日からオンライン配信されました。視聴回数は延べ480回（2021年4月26日現在）を超えています。シンポジウムの概要は以下の通りです（発表者の敬称略）。

今回のシンポジウムは三部構成で、第一部では主催者である松田了（沖縄県環境部部長）のあいさつに続き、岸本建雄（一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事）が『国立沖縄自然史博物館の設立構想』と題して研究・教育施設としての博物館の意義や自然史博物館の在り方について概説しました。国と県、設立準備委員会の三者が一体となつての事業化が当面の目標であることを力説されました。

第二部は、『沖縄に自然史博物館があったなら』と題した、西田睦（琉球大学学長）と盛口満（沖縄大学学長）の特別対談がおこなわれました。両氏が自然や生物が好きになったきっかけや研究者になったきっかけなどを、ユーモアを交えて対談されました。両氏とも自然史に興味のある若い人に伝えたいメッセージにおいて、国立自然史博物館が果たす役割の重要性を明示されていました。

第三部はビデオレターを起点としたパネルディスカッションでした。浜田太（一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事）、大城太志（県立向陽高校理科教諭）、川間佳子（那覇市中央公民館学芸員）、そして小林大純（琉球大学理工学研究科修士課程学生）がビデオレターで参加しました。一般市民から研究者までのステークホルダーが、『国立沖縄自然史博物館に期待すること』に関して意見を述べたり、提案をおこなったりしました。それらを起点として、西田睦、盛口満、小林政文（ホールアース自然学校沖縄校がじゅまる自然学校代表）、山城正保（株式会社沖縄銀行取締役頭取）、そして石垣綾音（まちづくりファシリテーター）のパネリストが意見や提案に答えつつ議論が展開されました。

沖縄県主催の国立自然史博物館誘致シンポジウムは昨年につき2回目となりましたが、県民への浸透が徐々に図られている印象を受けました。なお、沖縄県環境部自然保護課のホームページには、国立自然史博物館の誘致に関する様々な情報が集められているのでぜひご参照ください。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/index.html>

追記：

2021年7月21日から9月20日に、沖縄県立博物館・美術館で特別展「みんなの進化展」～命はつながっている～が開催される予定です。この特別展で、国立沖縄自然史博物館の設立構想を紹介できる説明パネルと配布用パンフレットを設置する予定です。

<https://okimu.jp/exhibition/evolution/>



沖縄県希少野生動植物保護条例について

2020年（令和2）11月1日より、「沖縄県希少野生動植物保護条例」が施行されました。同条例では、第8条に「指定希少野生動植物種の指定」とあり、動植物31種（令和2年11月1日施行）が指定されています。また第29条に「指定外来種の指定」とあり、イノシシをはじめ9種（令和3年4月1日施行）が指定されています。なお、今回の条例については、沖縄県庁（自然保護課）のHPに掲載されておりますので、参照ください。この条例以外にも、近年、沖縄県や鹿児島県においては、市町村が制定する保護・保全条例などが続々と制定・施行されております。こうした条例の中には罰則が定められているものもあり、申請のない研究活動については適用される可能性もありますので、会員の皆様におかれましてはご注意くださいようお願い致します。

池原貞雄記念賞関連のおしらせ

2021年度の第12回池原貞雄記念賞候補者を募集しましたが、今回は応募がなく、該当者なし、ということになりました。以下に歴代受賞者の概要を記します（受賞理由など学会HPを参照）。奮って御応募ください。

池原貞雄記念賞歴代受賞者

- 第1回（2010年） 佐々木健志（琉球大学資料館）
「沖縄の絶滅に瀕した昆虫類の現状と同じく絶滅に瀕した藁算について」
- 第2回（2011年） 小高信彦（森林総研・九州支所）
「ノグチゲラと暮らせる森づくりに向けて」
- 第3回（2012年）
藤田喜久（琉大・大学教育センター／NPO 法人海の自然史研究所）
「沖縄での生物多様性研究と研究成果の地域への還元」
小倉 剛（琉球大学農学部）
「沖縄島におけるマングースの効果的防除対策に関する基礎研究」
- 第4回（2013年） 中村 剛（台湾中央研究院生物多様性センター）
「琉球、台湾、フィリピンの植物地理」
- 第5回（2014年） 該当者なし
※規約改訂により研究、教育、環境の三つの部門で募集。
- 第6回（2015年）
研究奨励部門 中西 希（琉球大学理学部）
「イリオモテヤマネコの長期生態研究」
教育功労部門 沖縄生物教育研究会
「会員相互の研鑽、理科教育の発展、書籍の発刊等の長期活動」
- 第7回（2016年） 該当者なし
- 第8回（2017年） 該当者なし
- 第9回（2018年）
環境保護部門 NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄
「沖縄の希少動物と生態系保全を目指した獣医学的活動」
- 第10回（2019年） 該当者なし
- 第11回（2020年）
教育功労部門 安座間安史
「沖縄の自然、環境教育に対する長年の貢献」
環境保護部門 公益財団法人 沖縄こどもの国
「沖縄の在来生物保護を目指した飼育下研究と普及啓発」
※規約改訂により研究奨励部門表彰者の年齢制限をとりはらう（若手会員を優先）。
- 第12回（2021年） 該当者なし

沖縄生物学会 役員一覧表

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2021年4月時点)。任期は2年間で、2022年5月の総会までです。

会長 伊澤 雅子(北九州市立自然史・歴史博物館)
副会長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所) 上間 勉(沖縄生物教育研究会)

監査員 城間 恒宏(沖縄県教育委員会)
兼久 和也(琉球大学) 富永 篤(琉球大学)

評議員

大学関係 比嘉 俊(琉球大学) 金城 和三(沖縄国際大学)
渡邊 謙太(沖縄工業高等専門学校)
研究機関 米倉 浩司(沖縄美ら島財団)
長田 智史((一財)沖縄県環境科学センター)
糸 正幸((株)イーエーシー)
行政機関 菊川 章(沖縄県立博物館・美術館)
高校関係 大城 直輝(豊見城高校)
花原 努(コザ高校) 照屋 香(沖縄工業高校)
中学校関係 原戸 鉄二郎(安慶田中学校)

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事 戸田 守(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)
杉尾 幸司(琉球大学) 竹村 明洋(琉球大学)
山川(矢敷) 彩子(沖縄国際大学) 小林 峻(琉球大学)
江藤 毅(琉球大学)
会計幹事 傳田 哲郎(琉球大学) 玉城 歩(琉球大学)
編集幹事 藤田 喜久(沖縄県立芸術大学) 城ヶ原 貴通(沖縄大学)
編集委員 佐々木 健志(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)
前田 健(沖縄科学技術大学院大学) 傳田 哲郎(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

沖縄県生物学会賛助会員

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石哲也
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

原稿募集のお知らせ

沖縄生物学会誌では、随時原稿を募集しています。投稿を希望される方は、投稿規定に沿って原稿（原則として電子ファイルのみを受け付けます）を準備いただき、**投稿専用アドレス (journal@okibio.jp)** までお送りください。

沖縄生物学会誌は、年1回発行されており、毎年3月末に発行される予定となっています。投稿された論文原稿の審査（査読）は、早くも2週間、通常は2ヶ月程度要しています。また、受理された原稿の編集・校正・印刷業者業者との調整などを考慮し、例年、1月末までに受理された原稿を同年3月に発行される号に掲載することになっています。

これらの発行スケジュールをご理解の上、ご投稿をお願いします。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、投稿に関するお問い合わせについては、編集幹事の藤田喜久 (journal@okibio.jp) までお寄せ下さい。

原稿送付先：journal@okibio.jp（沖縄生物学会誌 編集幹事）

沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
生物系事務室 TEL：(098) 895-8577
庶務幹事 中村 崇 (098) 895-8897
FAX：(098) 895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp
振替口座（郵便）：02030-8-30433 沖縄生物学会